

アジア太平洋の無形文化遺産と自然災害に関する地域ワークショップ

Asia-Pacific Regional Workshop on Intangible Cultural Heritage and Natural Disasters

－ 開催要項 －

主催：国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）¹

共催：東京文化財研究所

協力：東北大学東北アジア研究センター

開催日程：2018年12月7-9日

開催地・会場：仙台国際センター（〒980-0856 仙台市青葉区青葉山 <http://www.aobayama.jp/access/>）

7日:会議棟3階小会議室8、8日:女川町エクスカーション、9日:会議棟3階中会議室白檀1

開催趣旨：近年、国内的にも国際的にも文化遺産防災への関心が高まっています。しかし国際的な関心の多くは有形の文化遺産に集中しており、伝統芸能や祭り、工芸技術、自然に関する知識などの無形文化遺産への影響についてはあまり議論が進んでいません。IRCIでは2016-2017年度にかけて、アジア太平洋地域の無形文化遺産と自然災害に関する基礎的調査を実施し、(1)自然災害による無形文化遺産への被害や影響の実態、(2)地域の防災・減災に役立つ無形文化遺産の2点に焦点をあて、現地研究者・機関と連携して情報収集を進めました。本ワークショップでは、過去2年間の活動成果を踏まえ、災害が頻発するアジア太平洋諸国の具体的事例をもとに議論を深め、自然災害から無形文化遺産を保護するための方法や、復興過程における無形文化遺産の役割、無形文化遺産を活用した災害リスクマネジメントの可能性について、アジア太平洋各国からの参加者等とともに考えます。

アジア太平洋各地では、風水害や地震に強い伝統建築の技術、保存食や非常食の知識、過去の災害の伝承など、地域の防災に役立つ様々な在来知が受け継がれてきました。その有効性に注目した防災の取り組みもある一方、国際的な防災枠組（「仙台防災枠組」）が各国で導入されるなか、全体としては、こうした在来の知識自体が失われつつあります。また無形文化遺産領域での議論が遅れている背景としては、無形文化遺産専門家が積極的に防災の取り組みに関わることが少ないという現状もあります。この点で、東日本大震災後の東北地方各地での伝統芸能や祭礼行事の復興を始め、日本国内における最近の取り組みは特に注目されており、本ワークショップにおいてもセッション及びエクスカーションを通じてその事例を共有します。また防災領域との対話を試みつつ、災害に焦点をあてた無形文化遺産研究や保護活動の促進を目指します。

言語：英語・日本語（同時通訳あり）

参加申し込み：ワークショップは非公開ですが、事前申し込みによりオブザーバーとしてご参加いただけます。詳細は添付の参加申込書をご覧ください。

事務局：国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）

〒590-0802 大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁堺市博物館内

電話：072-275-8050 Fax：072-275-8151 代表メール：irci@irci.jp

¹ アジア太平洋文化遺産研究センター（IRCI）は国立文化財機構に2011年に設立された組織で、ユネスコのカテゴリ2センターとして、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護の促進に資する調査研究を実施しています。

IRCIウェブサイト：<https://www.irci.jp/jp/>

スケジュール

(予定)

12月7日(金) ワークショップセッション (会場：仙台国際センター会議棟 3階小会議室 8)

- 9:00-10:00 参加登録・受付
- 10:00-10:15 **開会挨拶**
岩本 渉 アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長
山梨絵美子 東京文化財研究所所長事務代理
Himalchuli Gurung ユネスコ北京事務所文化プログラムスペシャリスト
- 10:15-10:30 **趣旨説明**
- 10:30-12:00 **アジア太平洋セッション(1) 自然災害と無形文化遺産の継承**
Soledad N. Dalisay (フィリピン大学ディリマン校)
Mya Mya Khin (ヤンゴン大学)
Phan Phuong Anh (ベトナム国立大学)
- 12:00-13:00 昼食
- 13:00-15:00 **アジア太平洋セッション(2) 被災経験から学ぶ無形文化遺産保護の課題と在来知の可能性**
Richard Shing (バヌアツ文化センター)
Fadjar I. Thufail (インドネシア科学院地域資源研究センター)
Jayaram Shrestha/Yamuna Maharjan (ネパール国立博物館)
Melaia Tikoitoga (イタウケイ言語文化研究所、フィジー)
- 15:00-15:15 休憩
- 15:15-16:55 **アジア太平洋セッション(3) 無形文化遺産と災害リスクマネジメントの更なる対話にむけて**
(17:00 終了) Abner O. Lawangen (タブレイ防災事務所、フィリピン/ポーツマス大学)
Md. Amanullah Bin Mahmood (元 FAO ダッカ事務所)
Vu Canh Toan (ISET ベトナム事務所)
- 17:30-19:30 レセプション (会場：仙台国際センター展示棟会議室 4)

12月8日(土) エクスカーション：女川町竹浦地区の祭礼復興事例

- 9:00- 仙台発
- 11:00-12:00 女川町庁舎研修室にて講話
三陸沿岸の民俗文化 (東北歴史博物館 小谷竜介)
女川の獅子振りの復興 (女川町獅子振り復興協議会事務局 平塚英一)
- 12:00-13:00 昼食
- 13:30-15:30 竹浦集会所にて講話・獅子振り視察
竹浦の被災と獅子振りの復興 (竹浦地区長 鈴木成夫・竹浦獅子振り保存会会長 阿部貞)
獅子振り実演

12月9日(日) ワークショップセッション (会場：仙台国際センター会議棟 3階白樫 1)

- 9:00-10:00 参加登録・受付
- 10:00-12:00 **特別セッション：日本における災害後の無形文化遺産復興の取り組み**
一柳智子 (郡山女子大学)
川島秀一 (東北大学災害科学国際研究所)
小谷竜介 (東北歴史博物館)
久保田裕道 (東京文化財研究所)
高倉浩樹 (東北大学東北アジア研究センター)

12:00-13:00	昼食
13:00-13:30	報告:ラテンアメリカの無形文化遺産と災害(仮題) Adriana Molano/Lucas Roque Dos Santos (ラテンアメリカ無形文化遺産センター)
13:30-15:20	全体討論(1) ワークショップのまとめ・コメント Jean-Christophe Gaillard (オークランド大学) Meredith Wilson (ステップワイスヘリテージアンドツーリズム、オーストラリア)
15:20-15:40	休憩
15:40-16:50	全体討論(2) 無形文化遺産を災害から護り防災に活用するための提言
16:50-17:00	閉会挨拶 高倉浩樹 東北大学東北アジア研究センター長 岩本渉 アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長

アジア太平洋の無形文化遺産と自然災害に関する地域ワークショップ

(2018 年 12 月 7-9 日、仙台国際センター)

参加申込書

ワークショップは非公開ですが、事前申し込みにより、オブザーバーとしてご参加いただけます。参加は原則無料です。

参加希望者は、下記フォームに必要事項を記載の上、IRCI 宛にメール (irci@irci.jp) またはファックス (072-275-8151) にてお送りください。

* 12 月 7 日は会場規模が小さいため、先着順とさせていただきます。レセプションへの参加は有料 (4000 円程度) となります。

* 12 月 8 日のエクスカーショについては参加可能人数に制限があるため、3 日間すべてのプログラムへの参加を希望し、県外より来られる方を優先させていただきます。また昼食代 (1500-1800 円程度) を別途いただきます。エクスカーションへの参加を希望する方は、11 月 15 日 (木) までにお申し込みください。

* 12 月 7 日・9 日ともに、昼食は含まれません。

* 宿泊は各自でご手配ください。

問い合わせ・申込み先：国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター (IRCI)

メール：irci@irci.jp 電話：072-275-8050 Fax：072-275-8151

申込者情報：

参加者氏名	
(英語表記)	
所属	
(英語表記)	
連絡先住所	
メールアドレス	

参加希望日：

(参加希望のプログラムをチェックしてください)

12 月 7 日 (金)	☐ ワークショップ	☐ レセプション
12 月 8 日 (土)	☐ エクスカーション	
12 月 9 日 (日)	☐ ワークショップ	